

## 1. まえがき

文書領域の余白は, 上 28 mm, 下 24 mm, 左右ともに 20 mm 空ける.

発表タイトルは 14 pt でセンタリングする. フォントは, ゴシック体で, 太字とする. 発表タイトルの下に 10 pt で 1 行分空ける.

発表者氏名は右端によせる. 発表者氏名の下に 10 pt で 1 行分空ける.

本文領域は 2 段組とし, 段と段の間は 8 mm 空けることとする.

本文の章は「1. まえがき」から始めることとする. また, 本文の文章は 10 pt で記述することとし, 行間は 1.5 mm とする.

ページ番号 (フッタ) は用いないこと. 通し番号 (「J-1」など) は後から印刷するので記述しなくてよい.

## 2. 研究概要

章見出しは 12 pt, 節見出しは 11 pt, 項見出しは 10 pt を基本とする. 章番号とピリオドはいわゆる半角の Century フォントを用いることとし, ピリオドの後にいわゆる半角スペースを置いてから見出し語を書くこととする. 1.2 節がないのに, 1.1 節を設けるのは論理的におかしいので注意すること.

英数字はいずれもいわゆる半角文字を用いること.

図のキャプションは図の下に表記すること (図 1). 逆に, 表のキャプションは表の上に表記すること. 図, 表のキャプションの説明文の最後にはいわゆる全角の句点を置く. 当然, 図番号や表番号は本文中で引用しなければならない.

## 3. まとめ

参考文献の見出しには章番号は振らないことに注意する. 当然, 参考文献で挙げた文献は, 本文中で必ず引用すること.

参考文献は 9 pt とし, 行間は 1 mm で列挙する. 文献名を囲む記号の開始は「`“`」であり, 「`”`」ではない. 向きに注意して確認を怠らないようにする.

各項目の区切りは半角のカンマとスペースとし, 最後は半角のピリオドとする.

複数の文献を同時に引用するとき, 2 つまでは半角カンマで区切る [1, 2]. 3 つ以上の場合, ハイフンで最初と最後の文献番号を示す [3-7].

## 参考文献

[1] 情報 一朗, “「参考文献」の見出しには章番号をつけない”, 関東高専学会学会誌, Vol.5, pp.72-73, 2004.

図 1 図のテスト.

- [2] 高専 太郎, “参考文献は 9 pt, 行間 1 mm で記述する”, 日本高専学会学会誌, Vol.19, pp.88-91, 2005.
- [3] 工学 華子, “囲む記号の開始記号の向きに注意”, 東日本高専学会学会誌, Vol.24, pp.54-55, 2003.
- [4] 清見 花子, “区切りは半角のカンマとスペース”, 世界高専学会論文誌, Vol.34, pp.1006-1009, 2005.
- [5] 台東 次郎, “最後は半角ピリオド”, 宇宙高専学会技術報告, Vol.3, pp.12-15, 2006.
- [6] 木更 三郎, “URL での参考文献はなるべく避ける”, <http://www.kisarazu.ac.jp/>
- [7] 木更 四郎, “URL には下線を引かず, 最後を示すピリオドも記述しない”, <http://www.j.kisarazu.ac.jp/>